

# 寺報

龍正寺

日なた 183号

蓮華

日延



<令和 5年 8月>

宝龍会  
護持会

# 2023年（令和5年）施餓鬼大法要

7月9日（日）



3年ぶりに檀信徒が集まり、お経を唱えることができました。皆さんのお経がご先祖様に伝わっています。



## ＝ 任職一言 ＝

暑の毎日、お月盆ですわね、御先祖様の供養をいたしませう。

宗祖百蓮大聖人御遺文「盂蘭盆御書より  
『悪の中の大悪は我が身にその苦をうくるのみならず、子と孫と末へ七代までもかかり候けるなり、善の中の大善も又又かくのごとし。目蓮尊者が法華經を信じまいらせし大善は我が身佛になるのみならず、父母佛になり給う、上七代下七代、上無量下無量の父母等存外に佛となり給う、乃至子息、夫妻、新從、壇那、無量の衆生三悪道をはたさるのみならず、皆初住、妙覺の佛となりぬ、故に法華經の第三にいわく、願くば此の功徳を以て普く一切に及ぼし我等と衆生と皆共に佛道を成ぜん』

〔解説〕悪の中の大悪は自身一人がその悪果を受けらるのみではなく、その子へ伝ひ、子から孫へと末は七代まで苦を受けらるものがある、善の中の大善もまたこれと同様である、目蓮尊者が方便の教を正直に捨て、大乘一實の法華經を信仰したその大善は目蓮

自身が成佛したのみではなく、彼の本体である父母も佛に成ることが出来るたのである。上七代の祖先、下七代の子孫、上は無量生、下は無量生の父母達が思も察らない佛果を得たのである。ただこればかりではなくその子息夫妻所従、無量の衆生が三悪道を離れたばかりではなく、皆初徑に入り、妙覺の極果に登る佛となつたのである。故に法華經第三の卷には「願う所は此の自分の爲した功徳をば、平等に一切の衆生に施し及して我等と衆生、自分と他人と共に佛道を成ずることであると説かれている。

御先祖様の供養することにより私たちの心の思いをわかちあえるやいさを作りましよう、盆とは御先祖と私たち加何事もわかちあうことが出来る様に心がけましよう

合掌

南無妙法蓮華經

## ～ 門前の蓮 ～

龍正寺の門前に蓮の鉢が大小合わせて5鉢あります。毎年御住職が精魂込めて育てられています。この蓮に毎年不思議な妙法も見て感じさせて頂いています。

- ・葉が青々と多数高く大きく大きく伸びて、門の両側にある教浅の看板が見えなくなった年。
- ・"まだ咲いている!"「開花32本」と驚くほど咲いた年
- ・お盆の入りには大きな葉にま、白なカエルが出現して、お盆中おと蓮の周辺にいましたが、送り盆の日も最後に姿が消えました。

今年はどうかかと楽しみにしていました。

今年も異常気象で発育が良くありませんでした。御住職もヤキモキさっていました。開花本数も今まで一番少ないとつぶやかれています。

しかし妙法がありました。施餓鬼大法要当日に今年の初めて開花しました。

この日が寺院の法要と知っているかのようなタイミングでした。

13日にも蓮の花が咲きました。この日は日蓮大聖人の報恩の日、そして盆の入りでした。

お寺の蓮はすごいな～と思い、御住職に“送り盆の日にも開花が見れるといいですね。”と話してみましたなんと!! 小さな花でしたか咲きました!!

門前にも妙法が溢れているお寺です。

朝勤時に御住職が部経もあげられます。早朝から参拝される方々もそのお経を頂きます。気持ちの良き一日が始まります。私自信も出勤前に参拝させて頂いています。“今日の日が良き日となりますように、”とキを合わせていたが、いつ頃からでしょうか。“今日が良き日と感じれる日を過ごします。”と思うようになりました。それは、幸せを感じる事感謝できる一日 ステキな日々にしていく事だと思う。

今年も門前の蓮の花に感謝、妙法を感じれる事に幸せをかみしめています。

## < 8月行事予定 >

8月13日(日) 10:00~

宗祖日蓮大聖人報恩会

18日(金) 10:00~

鬼子母尊神  
七面大明神 ) 祈禱会

27日(日) 13:00~

役員会

## < 8月住職の予定 >

寺院にて法務

## < 8月の予定 >

8月6日(日)

各々の時間で"

清掃、準備

}

12日(土)

↓

↓

13日(日)

法要後

片付け、準備

14日(月)

各々の時間で"

清掃、準備

}

17日(木)

↓

↓